

第14回 ISO/TC207 総会 コミュニケ（事務局参考訳）

2007年7月22日から29日に、中国の北京国際会議センターで第14回ISO/TC207（環境管理）総会が開催された。本総会には、39か国、10機関から約270名が出席した。ISO/TC207は、本総会の主催者である中国国家標準化管理委員会の尽力、専門性、及び暖かいもてなしに謝意を表す。

1) ISO/TC 207 プレナリー

(1) ISO/TC207 オープニングセレモニー

第14回ISO/TC207総会は、2007年6月24日に、中国国家標準化管理委員会の次官であるShi Baoquan氏の歓迎の辞によって開会された。セレモニーには、ISOのメンバー国及び機関の代表並びにゲスト総勢百数十名が出席した。Baoquan氏は、歓迎の辞の中で、国際的な環境マネジメントシステム規格の重要性を強調した。また、ISO/TC207議長のDan Gagnier氏及び事務局のAhmad Husseini氏、並びに中国石油天然気集団会社の副社長であるWang Yilin氏から基調講演が行われた。

(2) ISO 14001の10周年

ISO事務総長のAlan Bryden氏は、オープニングセレモニーで、ISO 14001の発行から10年が経過したことを強調した基調講演を行った。Bryden氏は、ISOの持続的な発展（sustainable development）に関する課題の中でのISO/TC207の活動の重要性について述べた。また、ISO/TC207ファミリー初の規格であるISO 14001の発行10周年を祝すために、ISO及びそのメンバーによる数々のイニシアティブのひとつであるISO 14000ファミリー規格に関するビデオクリップのワールドプレミアが行われた。このISO 14000ファミリー規格に関するビデオクリップは、www.iso.orgから無料で入手可能である。

(3) ISO/TC207事務局（Ahmad Husseini氏）の退任

オープニングセレモニーにおいて、ISO事務総長のAlan Bryden氏は、10年以上に及ぶTC事務局としてのAhmad Husseini氏の功績と献身を称え、Husseini氏に特別功労賞を授与した。また、クロージング総会において、ISO/TC207議長のDan Gagnier氏と副議長のHaroldo Mattos de Lemos氏は、写真と逸話を盛り込んだメモリアルブックをHusseini氏に贈り、祝辞と謝辞を述べた。参加者は、総立ちで退任する事務局に応じた。

(4) ISO/TC207/WG5（気候変動）コンピナへの特別賞の授与

2007年6月29日に行われたクロージング総会において、ISO/TC207議長のDan Gagnier氏と副議長のHaroldo Mattos de Lemos氏は、ISO/TC207/WG5のコンピナであるChan Kook Weng博士が、温室効果ガスの算定、報告及び検証に関するISO 14064シリーズの開発に好ましい影響を与え、重要な功績を果たしたことを称え、ISO/TC207特別業績賞を授与した。

(5) グリーンオリンピック持続可能な発展（GOSD、Green Olympics Sustainable Development）フォーラム

6月26日に、中国国家標準化管理委員会はGOSD（Green Olympics Sustainable Development）フォーラムを開催した。メンバー国及び機関の代表並びにゲストが出席したこのフォーラムでは、中国国家標準化管理委員会の長官であるLiu Pingjun氏、中国気象局の次官であるZhang Weijun氏、中国国家認証許可監督管理委員会のチーフエンジニアであるLiu Weijun氏、中国国家環境保護総局の副事務局長であるLuo Yi氏、ISO/TC207議長であるDan Gagnier氏及びISO事務総長であるAlan Bryden氏が基調講演を行った。基調講演に続いて、グリーンオリンピック、持続可能な発展、環境マネジメントの3つのセッションが並行して行われた。フォーラムの詳細な次第及びプ

レゼンテーション資料の多くは、www.isotc207beijing.cn/preen_index_iframe.htmからダウンロード可能である。

(6) ISO/TC207クロージング総会 - 第14回総会の決議事項

北京で開催された第14回ISO/TC207総会では、次の事項を含む24の決議事項が承認された。

- ・ ISO/TC207/SC1、ISO/TC207/SC2及びISO/TC207/SC5議長の再任（期間3年間）
- ・ ISO/TC207/WG4（環境コミュニケーション）の解散
- ・ ISO/TC207/WG5（気候変動）の解散
- ・ ISO/TC207/WG6（温室効果ガス妥当性確認・検証機関）の解散
- ・ ISO/TC207/SC7（温室効果ガスマネジメント及び関連活動）の設置
- ・ 砂漠化に関するアドホックグループの設置
- ・ 次回ISO/TC207総会に関して、コロンビア、エジプト、メキシコからのホスト引き受けに関する申し出の承諾

決議事項に関する更なる情報は、以下に示す関連SC及びWGの報告を参照のこと。

2) ISO/TC 207 タスクフォース、コンタクトグループ、アドホックグループ

(1) NGO - CAG (議長諮問グループ) タスクフォース

NGO - CAGタスクフォースは、その実施計画をすすめるために、総会期間中に複数回の会合を行った。本タスクフォースの座長であるJason Morrison氏は、クロージング総会で、本タスクフォースの現在までの成果を含めた活動、進捗状況について報告を行った。Morrison氏は、本タスクフォースで作成した文書案をベースにした、運用のガイドと手続きの策定、ISO/TC207の会議におけるステークホルダーバランスの特定、モニターのための、ISO/TC207事務局との継続的な協力を含む、作業計画の第1段階を完了するにあたっての重点領域について述べた。

(2) SME (中小企業) - CAGタスクグループ

ISO/TC207の議長は、北京総会で、新たなSME (中小企業) - CAGタスクグループを設置した。本タスクグループの目的は、SMEのISO/TC207への参加を促進し、ISO/TC207で開発している規格類とSMEとの関連性を向上させるための機会を特定し、評価することである。本タスクグループの座長はDan Gagnier氏が、副座長はLennart Piper氏及びOzzie Chinyamakobvu氏が務めることになる。第1回会議は、2007年の9月5日にスウェーデンのストックホルムで開催される。この会議の目的は、本タスクグループの詳細なToR (委任事項)、作業計画及びスケジュールを作成することである。

(3) DCCG (発展途上国コンタクトグループ)

DCCGは、会期中に3回の会合を行い、各地域（南アフリカ、北アフリカ、ラテンアメリカ、アジア太平洋）におけるISO 14001実施例、SMEに関連するISO 14001実施の問題、ISO 14064/14065（気候変動）に関する意識向上及びその利用、並びに地域グループの構成について議論を行った。本会議には、21か国から40名を超える参加があった。本コンタクトグループの決議事項には、UNFCCC（国連気候変動会議）とのリエゾン関係の向上、気候変動に関するISO 14064/14065 に関する地域ワークショップ開催への着手、SMEに対するマネジメントシステム監査に関するISO/CASCO（適合性評価委員会）とのコミュニケーションの実施が含まれている。本コンタクトグループは、地域（南アフリカ、北アフリカ、ラテンアメリカ、アジア太平洋）コンタクトグループの結成を約束した。

(4) SRTF (社会的責任タスクフォース)

SRTFは、会期中に1回会合を行い、これには21名のメンバーが出席した。本タスクフォースの3

人目の副コンビナとして、メキシコのErnesto Bächtold氏が迎えられた。本タスクフォースは、ISO/TMB(技術管理評議会)SRワーキンググループへのISO/TC207の正式なりエゾンメンバーとして、エクアドルのDiogenes Diaz氏、デンマークのKim Christiansen氏を任命した。Kim Christiansen氏は、ISO/TMB SRワーキンググループの発足からこれまでに開催されたりスボン、ポルトガル、シドニー、オーストラリア会議、及びこれから開催されるウィーン会議に焦点を当て、その活動の概要をまとめたプレゼンテーションを行った。本タスクフォースは、ISO 26000(社会的責任に関する指針)のWD3(第三次作業文書)に対するISO/TC207としてのコメントの募集及び編集プロセスについて合意し、2007年8月31日までにISO/TMB SRワーキンググループの事務局にコメントを提出することになった。

(5) 砂漠化に関する規格化検討アドホックグループ

盛会に終わったワークショップの後、ISO/TC207は、砂漠化及び土壌荒廃マネジメントに関連する潜在的な規格化のニーズと機会を調査するためのアドホックグループの設置を決議した。さらに、エジプトのOsama Elmiligy氏が、本アドホックグループの座長を務めることが決定された。これに対しては、エジプトに加えて、中国、スペイン、メキシコ及びイスラエルが支持を表明した。すべてのISO/TC207メンバー及びリエゾン機関は、本アドホックグループのエキスペートを任命するように求められた。

(6) STTF(スペイン語翻訳タスクフォース)

アルゼンチンが座長を務めるSTTFは、会期中に3回の会合を行い、ISO/TR 14062(環境適合設計)の翻訳についての作業、承認を行った。本タスクフォースはまた、ISO/TC207/TCG(用語調整グループ)の代表と、ISO 14050(環境マネジメント用語)のDIS(国際規格案)におけるスペイン語の用語及び定義に対するコメントの検討、明確化を行った。本会議へは、アルゼンチン、コスタリカ、コロンビア、メキシコ及びスペインが参加したほか、オブザーバーとしてエクアドル及びリエゾン機関からの参加があった。次回の会議は、ISOのその他のスペイン語翻訳グループ(ISO/CASCO(適合性評価委員会)/STWG及びISO/TC176(品質管理及び品質保証)/STTG)に合わせ、2008年の上半期に、ボリビアのサンタクルス・デ・ラ・シエラで開催される予定である。その際の目的は、優先文書であるISO 14050のDISやISOガイド64(環境側面)のCD(委員会原案)を含んだ本タスクフォースの作業計画を進めることである。

(7) ATTF(アラビア語翻訳タスクフォース)

ATTF会議には、エジプト、チュニジア、ヨルダンからの代表が出席し、ISO 14001(環境マネジメントシステム要求事項)、ISO 14004(環境マネジメントシステム原則、支援技法)、ISO 14020(環境ラベル)、ISO 14064-1~3(温室効果ガス)、ISO 14042(ライフサイクルアセスメント)及びISO 14048(ライフサイクルアセスメントデータ記述書式)の翻訳作業の進捗状況、並びに、ISO/TMBに設置された翻訳マネジメントグループを含む、ISO/TMBの新しい翻訳手続きをレビューした。この新しい手続きにより、ISO/TC207で開発した規格のアラビア語版の翻訳及び発行が早まることが期待される。

3) ISO/TC 207 SC(分科委員会)及びWG(ワーキンググループ)

(1) ISO/TC207/SC1(環境マネジメントシステム)

ISO/TC207/SC1は、2007年6月28日に総会を開催した。この総会には、31か国のPメンバー、1か国のOメンバー、5つのリエゾン機関が出席した。総会は、4日間にわたって開催されたISO/TC207/SC1/WG3(ISO 14005、環境マネジメントシステムの段階的導入指針)会議の後に行われた。ISO/TC207/SC1/WG3会議では、ISO 14005のCD(委員会原案)に対する協議の結果をレビューし、CD2(第二次委員会原案)とすることが合意された。ISO/TC207/SC1で可決された決議事項には、次を含む。

- ・ ISO/TC207/SC1の議長であるOswald Dodds氏の再任

- ・ 次回総会での、リエゾン機関のステータスの見直し
- ・ 将来のISO 14001及びISO 9001（品質マネジメントシステム要求事項）の、時宜を得た、整合性のとれた改訂を確実にするためのISO/TMB JTCG（合同記述調整グループ）への働きかけ
- ・ ISO 9001の時期改訂におけるISO/TC176/SC2（品質システム）との協同、及びその改訂作業へのエキスパートの派遣に関するISO/TC207/SC1メンバーへの呼びかけ
- ・ SMEの問題に関して、達成状況に関する情報を収集するための更なるサーベイ実施の決定
- ・ 解釈案件に関して、国内レベルで対応した案件を集積し、ISO/TC207/SC1メンバーに回付するために、回答とともにSC1事務局に提出するという既存の手続きの継続
- ・ Riana Johnson女史、Phil Stapleton氏及びMartha Lucía Castro女史のISO/TC207/SC1への貢献に対する謝意の表明並びに今後の活躍の祈願

（ 2 ） ISO/TC207/SC2（環境監査及び関連調査）

ISO/TC207/SC2 は、2007 年 6 月 27 日に、23 か国の P メンバーから約 40 名の出席を得て、第 14 回総会を開催した。ISO/TC207/SC2 は、満場一致の支持を得て、新しい副議長としてブラジルの Roberto Gomes de Almeida 氏を迎えた。また、議長である John Stans 氏の再任についても、満場一致の支持を得た。

ISO/TC207/SC2 は、ISO 14015:2001（用地及び組織の環境アセスメント（EASO））の定期見直し投票結果について議論を行った。この議論には、イギリスからのリスクマネジメントの原則を組み入れ、EASO の事業への影響の導入を重要視するために ISO 14015 を改訂することに関するプレゼンテーションも含まれる。しかしながら、ISO 14015 に対しては、大多数のメンバーが 5 年間の“確認”を支持した。同時にメンバーは、関連するステークホルダーの意識向上の一環として、積極的に ISO 14015 の普及促進に努めることを決定した。加えて、今後のワークショップに備えて、ISO 14015 の実施例を収集することがメンバーに求められた。

ISO/CASCO/WG21 から、第 3 者監査に関する要求事項である ISO 17021-2（第 3 者審査登録機関の審査員に対する要求事項）の開発状況について報告があった。この規格は、ISO 19011:2002（品質及び/又は環境監査の指針）の指針に基づくものであるが、マネジメントシステムの第 3 者監査の要求事項を規定したものである。また、環境及び/又は品質マネジメントシステム監査に関する“共同規格”である ISO 19011:2002 の定期見直し投票の結果についての報告もあった。投票の結果は、規格を“改訂”し、その適用範囲を一般的なマネジメントシステム監査に広げるべきであることを明らかに示唆している。メンバーは、この広く利用されている規格の改訂作業の開始を支持し、改訂版が再び共同プロジェクトとして成功を収めるように、ISO/TC176/SC3（支援技法）と準備作業を行うことについて合意した。

（ 3 ） ISO/TC207/SC3（環境ラベル）

ISO/TC207/SC3 は、環境ラベルに関する ISO 14020 シリーズ（環境ラベル）の強みと弱みについて議論を行うためのワークショップを開催し、これには多くの参加があった。ISO/TC207/SC3 は、6 月 28 日に総会を開催した。この総会での決議事項には、将来の定期見直しに利用するための、今回学んだ教訓を含む、ワークショップの成果をまとめた作業計画の採択、他の機関が ISO の環境ラベル規格に関する意識が不足しているという懸念の表明、環境ラベル又は宣言の開発者に対する調査を計画、実施するタスクフォースの設置、ISO/TC207/SC3 発足当時から John Henry 氏の貢献に対する謝意の表明を含む。ISO/TC207/SC3 は、承認された作業計画について、2008 年の ISO/TC207 総会でフィードバックを行う予定である。

（ 4 ） ISO/TC207/SC4（環境パフォーマンス評価）

ISO/TC207/SC4 は、6 月 28 日に総会を開催した。ISO/TC207/SC4 の主な決議事項には、2008 年の ISO/TC207 総会で開催するワークショップで議論を行うために、ISO 14031（環境パフォーマンス

ンス評価)の利用に関する情報及び事例を収集するタスクグループを設置すること、また、ISO 14032 (実施例)の潜在的な利用を拡大するために、ISO 14032 をより自由に入手できるようにISO/TC207/SC4 議長に要請することを含む。

(5) ISO/TC207/SC5 (環境ライフサイクルアセスメント)

ISO/TC207/SC5 は、ワークショップを開催した。このワークショップでは、ISO 14040 シリーズ (LCA (ライフサイクルアセスメント)関連規格)に関して、環境側面以外に考慮すべきと考えられ得るその他の側面(たとえば、経済性など)を含んだ、標準化の検討の妥当性及び既存のISOのLCA規格に対する変更の必要性とともに、近年のLCA技術における進展について議論が行われた。6月27日には、ISO/TC207/SC5 総会を開催した。主な決議事項には、環境効率に関するタスクグループの設置、今後標準化の可能性が考えられる“カーボンフットプリンティング”に関してISO/TC207の気候変動に関するグループとの協調、技術報告書であるISO/TR 14047 (LCA 影響評価の適用例)/14049 (インベントリ分析の適用例)を継続して存在させることの妥当性をレビューするためのタスクグループの設置、ISO 14040 (LCA 原則及び枠組み)/14044 (LCA 要求事項)の改訂に対する潜在的なニーズに関する協議の開始、ISO/TC207/SC5の議長であるHans Klueppel氏の再任が含まれる。ISO/TC207/SC5は、次回総会をISO/TC207の第15回総会にあわせて開催する予定である。

(6) ISO/TC207/TCG (用語調整グループ)

ISO/TC207/TCGは、6月の22日及び28日に総会を、その間にワーキンググループ会議を開催した。さらに、6月25日には、TCGの議長が用語及び定義の原則に関するセミナーを開催した。ISO/TC207/TCGの作業は、ISO 14050(環境マネジメント用語)のDISに対するコメントの検討、FDIS(最終国際規格案)の作成を中心に行われた。ISO 14050のFDISは、2007年8月下旬に回付される予定である。

ISO/TC207/TCGは、作業完了のための15の個別タスクを明確にし、タスクコーディネーターを任命して作業計画を更新した。ISO/TC207のメンバーは、適切な参加及び協力を確実にするために、ISO/TC207/TCGに代表を任命するよう働きかけることが求められた。ISO/TC207/TCGは、ISO/TC207の各グループに対して、用語及び定義に関する内部及び外部の調和を目指すことを奨励した。さらに、ISO/TC207のTermBankが継続的に更新、維持され、ISO/TCサーバのISO/TC207/TCGフォルダーから入手可能であることがメンバーに改めて周知され、翻訳用語の追加には、その用語をISO/TC207/TCGに提出することが求められた。ISO/TC207/TCGでは、ISO 14050の第3版が発行された後、規格形態をISOの“データベース規格”に移行することを検討中である。

(7) ISO/TC207/WG4 (環境コミュニケーション)

ISO/TC207/WG4は、13のメンバー国及び機関から21名の出席を得て、6月25日に会議を開催した。本会議の主な成果は、規模、業種、立地、構造、活動、製品及びサービス並びに環境マネジメントシステムをもっているか否かに関わらず、全ての組織にとって重要な環境コミュニケーションのツールとして、ISO 14063(環境コミュニケーション)を広く普及促進すべきであることをISO/TC207に対して提案することを含む。加えて、ISO/TC207/WG4は、ISO 14000ファミリー規格におけるISO 14063の相互参照ツールを促進するのにウェブサイト(<http://www.iso.org/iso14063>)を利用したISO中央事務局の画期的なアプローチに感謝の意を表した。最終的にISO/TC207/WG4は、そのマンダートの完了に伴い解散することをISO/TC207に提言した。

(8) ISO/TC207/WG5 (気候変動)及び ISO/TC207/WG6 (温室効果ガス妥当性確認・検証機関)

ISO/TC207/WG5及びISO/TC207/WG6は、6月25日及び28日に合同会議を開催した。合同会議の主な活動は、ISO 14064(温室効果ガス算定、報告、検証)の実施に関するサーベイの結果の

検討、ISO 14064/14065（温室効果ガス妥当性確認・検証機関の要求事項）の意識向上及び利用促進のための戦略の策定並びに今後必要となり得る新しい作業分野の検討であった。会議の成果は、温室効果ガスマネジメント及び関連活動に関する新しい SC の設置を促すことについての ISO/TC207 への提案、温室効果ガス規格及び協定に関連した、WBSCD（持続可能な発展のための世界経済人会議）及び WRI（世界資源研究所）との今後必要となり得る協働の機会を拡大することについての ISO への提案、インドネシアで開催される国連の気候変動会議における ISO 14064/14065 に関するサイドイベント開催についての合意、“カーボンフットプリンティング”及び関連する宣言の分野における今後必要となり得る新しい作業項目について調整するための ISO/TC207/SC3 及び ISO/TC207/SC5 とのリエゾンについてのコミットメントを含む。

（ 9 ） ISO/TC207/WG7（環境側面の製品規格への導入）

ISO/TC207/WG7 は、6月27日及び28日に会議を開催し、18か国、2機関から約30名のエキスパートが出席した。前回の ISO/TC207（2005年にスペイン/マドリードで開催）総会以降、ISO/TC207/WG7におけるISOガイド64（環境側面の製品規格への導入）の改訂作業には大きな進捗が見られた。北京会議における最初の作業は、ISOガイド64のCD3に対するコメントの検討であった。コメントを検討し、テキストに変更を加えた後、ISO/TC207/WG7は、この変更したテキストをガイド案（DIS（国際規格案）と同等）とすることをISO/TC207に提案することを決定した。ガイドの作成においては、正式な承認段階（FDIS（最終国際規格案））を必要としないため、ISO/TC207/WG7の作業は、2007年8月初旬に回付される予定のガイド案に対するコメントを、盛り込んだ後に完了することとなる。ISO/TC207/WG7は、ガイド案に対するコメントを2008年1月にスペインのマドリードで検討する編集グループのメンバーをノミネートした。改訂版のISOガイド64は、その後すぐに発行されることが期待される。